

## 2018 JUA/AUA Resident Program 参加報告

海 野 怜 (名古屋市大)

この度、2018年5月18日から5月21日に米国 San Francisco で開催された米国泌尿器科学会 (AUA) annual meeting 2018 に JUA/AUA resident program からの派遣として参加させていただきました。このプログラムでは、AUA annual meeting 期間中の滞在費ならびに registration 費用を学会に援助していただき、AUA resident bowl や president reception などのイベントに参加する貴重な機会もいただきました。

AUA annual meeting への参加は今回で3回目になりますが、参加する度にその規模の大きさや内容の濃さに圧倒されます。会場にはアメリカだけでなく、世界中から泌尿器科医が集まり、様々な医師が真剣に議論する様子は非常に刺激的でした。また、近年では多くの若手の先生方も、臨床や基礎研究について積極的な発表や討論を行っており、とても刺激になり、非常に勉強になりました。

AUA resident bowl は全米を8つの地域に分け、それぞれの地域で選出された resident が泌尿器科の知識を競う大会です。今回我々は New York チームの一員として参加しました。AUA が開催される1カ月ほど前からチーム内でメールで連絡を取りあい、チームリーダーを決めることや、得意不得意な分野を共有することで先発メンバーなどを決めていきました。問題は最新のガイドライ

ンに関するものや、歴代の AUA president の名前に至るまで幅広い分野から出題されました。難易度の差が激しく、性機能に関する出題も非常に多く、米国の特色を感じました。チームで一つの回答を出すために、短い時間内での真剣に討論したことはとてもいい経験となりました。New York team は1回戦で負けてしまいましたが若手の先生方との交流はとても楽しく、刺激になりました。

AUA president reception では世界各国の泌尿器科学会の大御所の先生や、日本を代表する先生方の集まる会で、各国からの exchange program 参加者と交流する機会をいただきました。私はヨーロッパや台湾などの各国の若い泌尿器科の先生方と、国ごとの研修の違いや研究に対する方針などの違いなどについて意見交換する場ができてとても参考になりました。

現在、私は大学院生として尿路結石に対する基礎研究に取り組んでおります。AUA で得た経験を糧に今後とも努力を重ね、学術会議に参加し、泌尿器科学の発展に貢献できるような仕事がしたいと思っております。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった日本泌尿器科学会 富田善彦国際委員長、米国泌尿器科学会の皆様、名古屋市立大学大学院医学研究院泌尿器科学 安井孝周教授、その他多くの先生方にこの場をお借りして心より深謝申し上げます。



写真1 resident bowl 著者は一番左



写真2 resident reception : JUA/AUA の先生方と著者は左から2番目 後ろは一緒に参加された茂田先生